

朝日カルチャー 野外の自然観察 立花山山麓「新緑のクスノキ原生林と城跡を歩く」

新緑の候の山を「山が笑う」と表現します。今回のコースは新緑を迎えた立花山と山麓の梅岳寺、六所神社、独鈷寺を歩く自然観察会に歴史散策をちょっぴり加えたものです。



新年度の新会員を含めた参加者 23 名に、スタッフを加えて総勢 26 名、2 グループに分かれての山歩きになりました。

集合場所の駐車場で季節の花が多く観られました。オドリコソウの蜜を味わい、シャクが花の美しさだけでなく、山菜や薬草として利用されていることなどをお話して観察会のスタートです。



エビネやサワハコベの姿も！

バクチノキやソメイヨシノ、アカメガシワの花外蜜腺を観察したり、在来種のみミナグサを見つけてハコベとの花や葉の付き方の違いを確認したり、カナムグラ、ヤブガラシ、アマチャヅルの似た者同士を見分けたりと、登山口までの道のりで多くの出会いがありました。

登山口からは、水場までのグループと傾斜のある石垣跡までのグループに再編成し、それぞれの山歩きが始まります。

可憐なホウチャクソウやおなじみのマムシグサの群生。木本類は昨年インストラクター会で設置した樹名板で確認。皆さんバリバリノキに興味しんしん、その名のおりバリバリした感触や、同じクスノキ科のホソバタブとの違いを観察しました。

水場までの道のりでは、食べられる野草のお話に加えて、食べたら危ない野草や触ったら危ない野草の見分けかたを確認します。美味しいレシピを紹介し合い、野草薬草談義に花が咲きます。

石垣跡グループは花崗岩がむき出しになった道を息きらして登り、1330 年立花城築城当時の石垣に触れます。散在する石垣跡から、その尾根道が立花城から松尾山城に続く道であったことを実感します。

このコースでは、幹回り 3m を超えるクスノキの巨樹や、もうすぐ開花しそうなサイハイラン、長い釣り糸を垂れたナンゴクウラシマソウを観ることができました。

後半は山麓のプチ歴史散策、神社仏閣巡りです。まずは福岡県の史跡「梅岳寺」にある立花道雪と義母、家臣薦野増時の公墓へ。境内では満開の藤棚が迎えてくれました。

次に向かった「六所神社」では、推定樹齢 400 年のカゴノキの壮大さに皆さんの歓声が上がります。威厳のある姿を多くの方が写真に撮られていました。

最後は「独鈷寺」です。本堂で天台宗開祖最澄が唐から持ち帰ったと伝わる独鈷と鏡を拝観し、ご住職のお話を伺いました（要事前予約）

参加者の皆さんを見送るコミュニティバスの駐車場で雨が降り出しました。心配した天候でしたが、行程内では雨に降られることはなく、新緑の山はどうやら笑ってくれたようです。また、新会員の方の「雰囲気がよくてとても楽しかった」の感想も伺うことができました。無事観察会を終えられたことに感謝し、スタッフも解散となりました。

スタッフ 手寫 常藤 (記)

